

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100149		
法人名	社会福祉法人 清長会		
事業所名	しあわせホーム甲府		
所在地	甲府市城東3-7-11		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 21 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5 年 1 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々との関りが多く持てるよう、ボランティアの受け入れを多く行事に取り入れ認知症の方の理解、認識をして頂いている。ホーム独自の歌や踊りを利用者様とともに考え、日々の機能訓練として行っている。また、日々の作品作りに励み、日常生活に張りが持てるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成20年に開所し、甲府市の閑静な住宅街にある2階建てのGHです。当施設では看取りは行っていないが、系列の特養への住み替えも提案でき、重症化した時の受け皿があり安心です。法人内の他施設とも連携が取れ、コロナ禍での感染対策の情報交換が密にできています。外出がままならない利用者に対し、職員一同どう季節感を味わってもらえるか考え、食事や環境を丁寧に見直し、提供していません。利用者と職員がともに共同生活している場であることを意識し、相手を大切に思う会話を、利用者と職員はもちろんのこと、利用者同士でも心がけてもらえるよう毎朝全員で共同生活のルール(人のことを中傷したり人の欠点など言わないようにしましょう。思いやりの心でお互いに接しましょう。)を唱和しています。自分の親も入所させたいと思える施設づくりを目指し、日々努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名: しあわせホーム甲府

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		
			ユニット名()	実践状況	
I.理念に基づく運営			次のステップに向けて期待したい内容		
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夢と希望に満ち溢れ一人一人が地域との関わりを持ちしあわせを感じるホームを理念とし共有、実践に繋げている。毎朝機能訓練を兼ねた体操後の朝の会で職員と利用者が一緒に共同生活の場としての心がけ2項目を声に出して読み上げている。同時に理念も読み常に振り返る場としている。	フロアの皆の目に留まるところに理念と共同生活のルールが掲げられ、職員・利用者共に毎日唱和し、共同生活の場であることと地域に開かれた施設であることを意識し、利用者の思いを支えることを常に念頭に置き、ケアに努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアは、フラダンス、アニマルセラピー等多数来所している。また甲府市笑顔ふれあいサポーターの方も来所している。ボランティアを受け入れるために掲示板、知人、法人内の施設を通し働きかけている。現在はコロナにより中止としている。	自治会に加入し、回覧板も回ってくるので利用者と一緒に見えています。現在はコロナ禍で、地区の行事も行われていません。	認知症の理解を深めるため、回覧板等を活用し、事業所の様子やコロナ禍での感染対策の情報を発信していくなど、地域に開かれた施設として、地域と連携していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方によるボランティアや運営推進会議、防災訓練等の協力を通じ事業所の運営や認知症の方との共存を理解し、支援して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的な会議を開催し、利用者、地域代表、包括職員、利用者家族代表、有識者の参加により、第3者からの意見を頂き、サービスの向上に活かすことができている。事業状況や外部評価の結果を報告しており、評価の課題に取り組み実施している。	今年度は一度皆で集まれたが、それ以外は書面での開催となりました。コロナ感染対策の情報交換が密にでき、大変有効な機会となりました。虐待、拘束委員会についても有意義な情報交換ができ、今後の運営に役立てることができました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や地域包括へ事業所の状況の報告を行いながら、協力関係を築いている。市へ推進会議や事業状況を持参したり、しあわせ便りを郵送して協力関係を築けるよう心掛けている。	制度的な確認や疑問等、密に連携が取れ、特にコロナ感染の新たな情報などを常に受け取れる関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心とし、研修会への参加や会議等の取り組みの確認を周知徹底する場を設けている。不適切な言葉遣いは、後で1対1で話し合い、会議で再確認をして共有している。利用者様の気持ちや不安定な時には家族に連絡をしたり、気分転換ができるよう対応を工夫している。	現在身体拘束は行ってないが、居室スペースが二階であることから玄関の施錠は行っている。身体拘束による利用者の精神的苦痛をしっかりと理解し、言葉使い等きめ細かく職員間で共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内の研修の参加により、知識を持ち、職員会議にて報告を行い、一人一人が注意し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修参加や施設内研修を行い、職員全体で情報を共有しながら学んでいる。コロナにより現在は施設内研修が主になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時本人家族を含め、契約内容、重要事項の説明を行い、利用について理解して頂いたら署名、捺印を頂いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: しあわせホーム甲府

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族総会において、定期的に家族との意見要望を伺う機会を作り玄関に無記名のアンケートを設置し、家族や第三者からの意見を掲示板に掲載することにより運営、ケアに反映させている。直接相談も受け付けている。現在は家族来所時や電話連絡で意見を伺っている。	コロナ禍で、今までと同じような面会ができないとの家族からの要望で、頻りに電話で様子を伝えたり、リモート面会を提案し行っています。又コロナ禍で外出できない分施設内の安全面や環境整備に力を入れ、家族に綺麗で過ごしやすくなったとの評価を頂いたとの話が聞きました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に相談、意見のできる環境作りに努め、毎日実施している。職員会議等にて反映させている。各職員が行事や委員会の担当を受け持ち会議時にはそれぞれの問題点や提案を出し話し合いをしているので意見がでやすい。	理事長と年1回個別に話し合う機会があり、思いを伝えることができます。管理者とは日々の業務の中で常に話す場があり、記録の書き方、業務分担等意見を求め、迅速に改善につなげることができています。又ケアの方法についてあらゆる角度から意見交換ができる環境になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課等の個別面談を行い、各自が向上心を持てるよう適材適所を見極め、役割を持ってもらう。働きやすい職場を目指し常に相談する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新任研修や事業所内での研修、勉強会にも参加し、サービス向上に努めている。外部研修も、職員会議で報告、共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で連携を図り、利用者と関りながら、職員と共に交流会を実施。又他施設の見学や交流会等実施している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面接と施設への見学を実施をしている。事前に情報を聞き要望や不安なを職員が理解したうえで入所出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入所後の様子説明を通し、家族の意向を聞ける環境を作り、入所後もこまめに連絡をとり信頼関係が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の意向を十分に聞き、他サービスも含めた利用の説明を十分に行い、様々な選択肢の中より意向に沿った情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人格を尊重し共に生活する中で、お互いの時間、生活を大切に共同生活ができるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: しあわせホーム甲府

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	
			ユニット名()	実践状況
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況をこまめに報告、相談する事により家族の協力、また家族の意向を支援していけるよう努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所により知人との関係が途切れることのないようにいつでも気軽に訪ねて来れるよう環境作りに努めている。又、本人が会いたい方への連絡等もご家族の協力を得て実施している。	コロナ禍で馴染みの場所に行くことは難しいが、オンライン面会や、知人・家族に年賀状を出す手伝いをして、返事が来ることを期待する利用者の思いに寄り添って支援したとの話がありました。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の生活の中で、協力し作り上げる作業を取り入れ親睦が深められるような工夫をしている。また席や居室の移動も相談のもと実施している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にサービス終了後も変わらず相談を受け付けられる事をお伝えし、継続的に関りが持てるよう支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には、本人家族に意向を確認しケアプランに反映している。日々の生活でも個々の意向を聞き、把握に努めている。	生活歴や家族から情報を得て、実際に好きな歌やTV番組を見つけ利用者に提供したり、日頃の様子や何気ない一言からヒントを得て意向を探っています。お酒を飲みたいという方にノンアルコールを提供した話も聞きました。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接において本人と家族に意向を確認し、プランに反映させている。日々の生活でも個々の意見を聞き把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズム、身体状況に合わせて残存機能を活かした機能訓練、生活リハビリ体操等を実施している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となり、本人、家族、主治医、職員より意見を持ち寄り、ケアプランを作成している。家族と利用者との会話を基にプランを作り、契約時に担当者会議で確認をしてケアプランを作成している。モニタリングは日々の記録や職員の気づきを記入して見直しに反映している。	月1回の職員会の場で、居室担当がモニタリングした内容について意見を出し合い、医療関係者、家族、本人の思いもその場で情報を出し合い、あらゆる方向からアプローチし、ケアプランにつなげています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った形で毎日個人ファイルに記録を記載し、職員間の情報共有を行っている。特記がある場合は色を変え記入し、連絡ノートで共有し、統一したケアに努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内に特養、ショート、デイサービス、居宅介護支援事業所がある為、連携を図りながら本人、家族が状況に応じた柔軟な対応に努めている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: しあわせホーム甲府

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	
			ユニット名()	実践状況
				次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は行っていないが、積極的にボランティアの受け入れを行っており多くの方が来所し、日々の活力楽しみに繋げている。コロナが収束したら再開を予定している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医を変更するのではなく、本人の病状や家族の希望に沿い、事業所の状況として受診連絡票を作成し、主治医との関係を維持、継続していけるよう連携を図っている。事業所の月1回の往診や必要に応じて歯科医等の関係も保持している。	入所時にかかりつけ医の希望を確認し、利用者や家族の意向に合わせています。受診が困難になった時には随時協力医に変更も可能です。又、歯科・皮膚科・眼科の往診もあります。協力医以外の受診は基本家族対応だが、施設での様子を詳細に記録し、家族から医師に伝え連携がとれます。状態によっては施設職員が付き添うこともあります。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診看護師やかかりつけ看護師と情報を共有しながら、生活身体状況の支援に努め、必要に応じて相談、助言を頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先に出向き、本人の状況確認をし、医師、看護師、ケースワーカーからの意見、情報交換をしながら家族を含め相談し、早期退院できるよう努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期に向けた方向として同法人の特養の申し込みを案内させて頂いたり、家族会を通じて事業所の方針と事業所で出来ることの説明をさせて頂き、随時状況変化に対応できるよう連絡を行っている。	当事業所では看取りは行わないと入所時伝えています。一般浴が難しくなってきたり、医療行為が必要になった段階で、看取り可能な施設の紹介をして住み替えを勧めています。法人系列の施設に特養があるので、そちらとも連携をとっています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルを活用し対応を行っている。利用者名簿、職員連絡網の活用、ヒヤリハット、インシデントの活用も、事故防止委員会が中心となって対応、対策を検討している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3カ月に1回避難訓練を実施し、地域住民に協力員になって頂いている。災害時、緊急の協力を依頼要望している。現在は出来ていないが協力員に参加を呼びかけ避難訓練を行っている。避難場所が決めているので外出の際には毎回話をして意識づけを行っている。	年4回夜間想定も含め実施しています。ハザードマップでは水害地区になっているが、二階建てのため安全確保はしやすいです。訓練としては、消防署の立ち会いのもと行い、アドバイスや改善点をいただいています。又、通報訓練、消火訓練、利用者参加の避難訓練を行い、地域の方には実際に施設内に入っていたり、協力内容の確認を行っています。コロナ禍では地域の方の参加は無理だが、協力内容を把握しているので災害時等の協力体制はできています。備蓄品等も十分に用意されています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する為に、認知症利用者に対する一人ひとりのケアを重視し、職員会議や施設内の勉強会を通じ、プライバシーを損ねない言葉かけの統一を検討し対応を行っている。利用者間でも傷つける事は言わないように心掛ける事を毎日皆で読み上げて意識できるようにしている。	同性介助を基本に対応しています。利用者の呼び方や会話等にも気を付け、年長者であることを常に念頭におき、尊敬の思いで対応しています。又よそよそしくならないように甲州弁も交えながら節度ある会話を心がけています。

自己評価および外部評価結果

事業所名: しあわせホーム甲府

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	
			ユニット名()	実践状況
				次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを傾聴し見守りながらその能力を見極め、自己決定できるよう選択肢を多く持てるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にするためにも、無理強制せずレベル低下に注意しその時その時の本人の希望に沿ったケアを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洋服の準備は出来る限り本人と一緒に、身だしなみやおしゃれを自己決定して頂いている。必要に応じて家族にも協力して頂き、化粧品を持ってきていただいている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がメニューを作り、近くのスーパーに行けるときは利用者と共に食材の買い出しに行っている。食事作りから食器の片付けまで利用者ができるところを一緒に行っている。食事前には嚥下体操を行っており定期的な嗜好調査を行いメニューに反映している。	コロナ禍で外食ができないため、外注の弁当のメニューから選んでもらったり、バラエティーにとんだメニューに加え、寿司 pizza カップラーメン等利用者の好みに合わせ提供しています。季節の行事食やホットプレートでの焼肉パーティー、誕生会にはケーキや手作りおやつを提供し、利用者を楽しんでもらっています。又、配膳 下膳 食器洗い 食器拭き等利用者に合った手伝いをしています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食量、水分量を把握し、毎食毎に摂取量のチェックを記録し、栄養のバランスの確認を行っている。摂取ペースも各々違う為、ごちそうさまは統一せず本人の状況に合わせてケアを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施し、残存機能を活かしながら仕上げ確認を職員側で援助している。また歯科往診の際歯科医よりアドバイスを頂き、口腔内の衛生保持に努めている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員全員で把握し、1人1人の状態に合わせた方法で排便を促し、失禁に繋がらないような支援を行っている。介助支援の方は、排泄パターンを把握して、時間を見ながら声掛けをしている。	チェック表を利用し、利用者すべての排泄パターンを把握しています。利用者によっては入所時よりパット使用量が減ったとの話も聞きました。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行いながら、個々の排便状況を把握し、1人1人に合わせた排便ができる時間や、環境を提供し定期的な運動を取り入れ水分補給での工夫を行いながら、便秘予防に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を考慮した上で、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。1人ずつの対応で行っている。	週2回の入浴を基本にしており、入浴剤等で季節感を出したり、ラジカセを浴室に持ち込み、好きな曲を聴きながらの入浴を提供しています。入浴を嫌がる方には、時間や日時、対応職員を代えて対応しています。それでも難しい場合には清拭のみの時もあります。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを理解し、利用者のペースで入眠を促すよう支援している。状況に応じ、職員と過ごし安眠ができるような環境も提供している。日中も本人の希望により昼寝をして休息できるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: しあわせホーム甲府

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	
			ユニット名()	実践状況
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係書類は1冊にまとめ、職員が常に服薬について把握ができるようになっている。薬の変更については連絡ノートの活用や、申し送りにて2重確認を行いながら、症状変化については記録と申し送りを行う。また家族にも適宜報告を行っている。服薬ミスを防ぐためチェック表も活用している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割や身体状況を見極め、状態を動機しながら出来ることの支援を考慮し、生活パターンが同じにならないようメリハリをつけて援助している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出、外食は行えていないが、利用者様からアンケートをとり食べたいものを購入して召し上がって頂いたり、天気の良い日には人がいない場所を散歩したりして気分転換を行っている。コロナ前は季節ごとの外出、個別での外出、家族会での日帰り旅行を行っている。	コロナ禍でなかなか外出は出来ないが、感染状況を見ながらドライブで善光寺やバラ園に行きました。又、コロナワクチン接種のため接種会場へ一人5回程度外出する機会があり、思いがけず馴染みの場所に行くことができたとの話がありました。天気の良い日には、1階駐車場でお茶会をしたり、近所へ散歩したりと良い気分転換になってます。散歩中、自販機で飲み物を買うことも楽しみになっています。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にお金の管理について利用者、家族に十分に説明を行い、紛失や盗難防止の為にも1人1人の財布を預かり、お小遣い帳の活用を家族にも確認して頂き、管理を行っている。必要に応じて買い物ができるよう環境を整えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、掛ける等の援助は常時出来るようになっていく。手紙のやり取りも行え工作の際作成した絵手紙などを家族に送るなど援助している。オンラインでの面会も行える。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう利用者を中心とした、月間カレンダーや手作りの作品をフロア共有スペースに飾っている。また行事やレクリエーションの写真を掲示し、明るく居心地の良い雰囲気作りを努めている。	天窓があり、日光が十分差し込み、風も心地よく入ってきて快適な空間になっています。利用者と共に制作した、季節を感じさせる壁画や季節ごとの花が飾られています。懐かしの看板と銘打って昔のCMやポスター、芸能人の写真が飾られ、日々の話題づくりや回想法に役立てています。キッチン是对面式で、においや音が利用者へ届き家庭的な雰囲気醸し出されています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	席は決まっているがそれぞれが譲り合えるような環境作りを行っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に利用者と家族で相談し、本人が安心、安全に生活ができるような好みの物を取り入れ環境変化をあまり感じないよう配慮している。	備え付けのベッドと大きな収納スペースがあり、ゆったりとした空間になっています。使い慣れた机や家具がおかれ、壁には家族の写真や利用者の作品等が綺麗に飾られ、落ち着いて安心できる部屋になっています。TVや位牌など持参する利用者もいます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の能力を活かしながら、その人らしい生活が送れる様安全に配慮している。またヒヤリハットやインシデントを活用し未然に防げるよう話し合いを行っている。	